特集ワイド

長妻昭・民主党衆院議員「野党日記」　巨大与党にどう挑む

アベノミクスへの関心が高まる一方、野党に転げ落ちた民主党の存在感は薄れるばかり、今夏の参院選で「二番底」を迎えるという声すら聞こえる。第1次安倍内閣時代の07年、国会で「消えた年金問題」を追及し、政権交代への道筋をつけた〝ミスター年金〟こと長妻昭衆院議員（52）はどう巨大与党に再チャレンジするのか。「野党日記」を公開してもらった。

【構成・大槻英二】

2月7日（木）

3年3カ月の与党時代を経て、衆院予算委員会で久しぶりに野党として質問に立つ。自助を強調する安倍政権を象徴する生活保護問題を取り上げる。国が国民に最低限これだけの生活を保障しますという「生活保護基準」を引き下げると、その基準に連動して給付基準を定めている就学援助などにも影響が及ぶ。その結果、保護を受けていない低所得者層にも負担増をもたらしかねない問題を追及。影響が及ぶ可能性のある制度の数をただしたところ、「把握していない」との政府答弁。保護を受けていない低所得者層への影響をよく考えないまま生活保護費のカットを決めたのではないか。

昨年末の総選挙で民主党は惨敗したが、格差是正のために人や家計に投資するという、民主党が目指した「コンクリートから人へ」の理念まで否定されたわけではないと思う。安倍政権は企業を補助し、格差拡大はやむをえないとの発想が強い。勢力は小さくなったが、役割の重要性は増している。きちんとチェックしていきたい。

8日（金）

自民、公明、民主3党による社会保障に関する実務者協議に出席。年金と高齢者医療の両制度について国民会議の前さばきで話し合う場。社会保障制度改革推進法では8月21日までに両制度を変える法律をつくることになっているが、自民、公明両党には改革する気が薄いようだ。現行制度を微修正するだけでいいというスタンスで、民主党が課題と解決策を示しても今のところは乗ってこない。

12日（火）

衆院予算委。東京電力が国会事故調査委員会に「建物の内部は真っ暗で入れない」と虚偽の説明をして福島第1原発1号機の現地調査を妨げた疑惑で、東電の広瀬直己社長を参考人として招致。私は予算委の野党筆頭理事を務めており、審議をできる限り短くしたい自民党と水面下で激しい駆け引きをしている。この疑惑で我々は「真っ暗」と説明したといわれる当時の企画部部長も呼ぶことを求めたが、自民党は応じなかった。

13日（水）

党改革創生本部総会に出席。選挙の敗因を分析・総括し、どう再生するかを議論する場だ。「民主党の大きな敗因の一つは、官僚主導政治を変えるというファイティングスピリット（闘争精神）を失ってしまったのではないか、と国民から見られたことが大きかったと思う」と発言した。

資料また出なくなった

民主党大会の開会前、他の参加者と話し込む長妻昭衆院議員＝東京都内で24日、竹内幹撮影

ながつま・あきら　1960年東京都生まれ。慶応大卒。NEC、日経ビジネス記者を経て、2000年に衆院東京7区（渋谷区、中野区）で初当選し現在5期目。09年9月から10年9月まで厚生労働相。著書に「招かれざる大臣」。

14日（木）

〈12年度補正予算案が衆院本会議で自民党、公明党、日本維新の会などの賛成多数で可決され、参院に送付される〉

民主党が反対したのは、我々の政権では国の借金である国債の発行額を年44兆円までに抑えるという規律を守ってきたのに、安倍内閣は50兆円以上に拡大し、非常に放漫な財政運営を進めようとしているためだ。使い道も公共事業一辺倒だ。

19日（火）

衆院第2議員会館の地下食堂で私の事務所のインターン生6人と昼食。以前は政治家志望が多かったが、最近は公務員志望が目立つ。政治家はカネがかかって落選のリスクがあり、家族から歓迎されない職業とみられている。候補者の公募に応じる人も少ない。政治家の実態を知ってもらおうとインターンの受け入れを続けている。

20日（水）

夜、中堅官僚たちと居酒屋で飲む。民主党の政治家は過度に官僚を信用していなかったという見方だった。相互不信に陥っていたのではないか。「民主党政権はいったんものごとを決めた後、途中で方向転換することが多すぎた」との意見が目立った。政治家は方向転換を嫌うのは官僚的と考えているが、官僚側からすると締め切りがある中で振り回されると仕事の完成度が低くなるという思いが強い。既得権益を守ろうとする官僚もいるが、改革派もいる。彼らと相互理解を進めていくことが課題だ。

22日（金）

〈民主党の参院議員2人が離党届を提出。民主党の参院会派は85人となり、第2会派の自民党との差が2人になる〉

6年前の参院選で民主党は予想以上に1人区で勝った。今回は当選が難しいと、そわそわする気持ちもわからないではない。しかし、選挙の度に離党して当選を重ねることがいいことなのか。

23日（土）

午後2時半、中野区南台で国政報告会。昨年末の衆院選福岡2区（福岡市中央区など）で落選した稲富修二さん（42）が活動の参考にしたいと見学に来る。都市部では1年間に有権者の1割が転出入で入れ替わる。後援会を固めることは大切だが、より多くの人たちに活動を知ってもらうことがカギになる。私は初当選以来ほとんど毎週、国政報告会を開いている。

年金・医療　自公にやる気薄い

24日（日）

午後1時、ホテルニューオータニで党大会。来賓は維新の松野頼久国会議員団幹事長、みんなの党の浅尾慶一郎政調会長と民主党にいた人ばかり。浅尾さんがあいさつで「民主党は目に見える人を大切にしすぎた」と、暗に労組頼みを指摘したのが印象的だった。国会議員を13年務めてきてつくづく思うのは、日本の政治の最大の問題点は票とカネを持っている団体に予算や法律が引きずられすぎるということだ。

今回決めた党綱領で、民主党は「既得権や癒着の構造と闘う改革政党」であり、目指すのは「共生社会」であると、二つの旗印を打ち出すことができた。強い者がより強くなって、そのおこぼれでみんなが豊かになればいいというようなアベノミクスとは、目指す社会が全く異なる。海江田万里代表には、この違いを明確に打ち出し続けていってもらいたい。「ものわかりがいい野党」になったら終わりだ。

27日（水）

順調に進めば、来週から13年度予算案を審議する予算委が始まる。衆院だけで1カ月以上の長丁場だ。党の予算委メンバーと質疑の打ち合わせ。前原誠司元外相をはじめ、原口一博元総務相、辻元清美元副国土交通相と論客そろい。予算委では古い政治に逆戻りしている自民党政権の問題点をただしたい。野党になると霞が関に資料を要求しても、ほとんど出てこなくなり、説明者は局長から課長補佐になった。与党も野党も経験した民主党だからこそできる建設的な質疑をしていきたい。あせらず、くじけず、粘り強くを心がける。